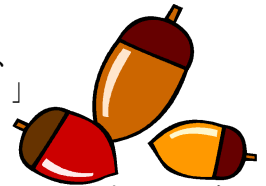


村岡通信

2020年度10月号
藤沢市立村岡小学校
校長 木内 功

10月になり、涼しい日が増えてきました。朝の校門であいさつをした児童は、「暑くていやだった夏も、うるさかったセミの声も、今では懐かしい気がする。」と話してくれました。学校の1年は4月に始まるので、ちょうど半分が過ぎたことになります。今まではなかった長期休校や分散登校があったり、逆に今まであった行事などが取りやめになったりして、学校でも新しい生活スタイルにしなければいけないことがたくさんある1年ですが、子どもも大人も力と知恵をあわせて、乗り切りましょう。



学校のまわりで見つけた！

小塚地区の児童の通学路になっている、JR線の下を通る地下道(空と海のトンネル)を知っていますか？歩いてみると、通路部分はけっこう低くて大人は頭をぶつけそうなほどです。また、通路の真ん中が盛り上がっていて2つのコースがあるような感じですが、不思議な地下道だと思っていたのですが、『広報ふじさわ』にその地下道のことを説明している記事があるのを見つけました。藤沢市文書館の許可をいただくことができたので、読んだ人も多いかもかもしれませんが、記事を紹介いたします。

洪水を排出する東海道線の避溢橋(ひいつきょう)りょう

JR東海道線藤沢駅と大船駅の中ほどに線路をくぐる小さなトンネル(宮前避溢橋りょう)があります。車は通れませんが、地元の人がよく使っています。かつてこのトンネルには、今では想像しにくい大きな使命がありました。

昔この辺りは、柏尾川の氾濫原に広がる田んぼでした。そこに土手を築いて1889年に東海道線が開通しました。

この柏尾川は名だたる暴れ川で、古くは江島縁起の五頭龍(ごずりゅう)と天女(弁天様)の話で洪水などを起こす五頭龍として描かれたほどです。

特に線路ができてからは、溢(あふ)れた水が土手の北側に留まるようになり農家を困らせたので、その水を川に落とすため作られたのが避溢橋りょうです。

今も、トンネル中央部は排水路を通して一段高く、南側の水路に続きます。付近の土手からは水がしみ出ている、地下水の流れが残っていることがうかがえます。

広報ふじさわ2020.8.10号より

通路の盛り上がりの中には排水路が通っていたのですね。「空と海のトンネル」には「宮前避溢橋りょう」というちょっと難しい名前があることや、人が通るためだけではない別の大切な役割があったことがわかり、地域のことをもっともっと知りたいという気持ちになりました。かつて中学校の美術部員の人たちが壁画を描いてくれたときも、そんな歴史を感じたり平和を願ったりしながら作業したのかもしれない。



再確認を！

先日、暴風雨に関するお便りを出しましたが、警報が発令されることもなく、学校も通常どおりの学習活動をおこなうことができました。ご協力ありがとうございました。お便りの中でも触れておりますが、児童の安全のため、以下の点の再確認をお願いいたします。

午前6時30分の時点で藤沢市に大雨警報・洪水警報・暴風警報のいずれかの警報が発令されている場合は、自宅待機し、学校からの連絡を待って下さい。

また、ご自宅周辺の状況により、児童にとって危険が予測される時は、学校からの連絡にかかわらず、ご家庭の判断で登校を見合わせるようお願いいたします。